



東京 2020 オリンピック 聖火リレー

希望の道を、 つなごう。

県内最高齢ランナーで99歳の後藤稔夫さんは「日田に元気を届けたい」と思いを語りました。また、午後6時35分から中央公園で行われたセレブレーションでは日田祇園獅子保存会や、日田三隈高校のギター・マンドリン部による生演奏で会場は笑顔に包まれました。また、光と音が融合したパフォーマンスも会場を大いに盛り上げました。

4月23日、日田市で東京2020オリンピック聖火リレーが行われました。都道府県で大分は15番目、九州ではトップを切って始まった聖火リレー。日田市は初日の最終区間でした。
午後7時14分。第一走者は、燃える聖火を確認すると日の出町バス停をスタート。笑顔で手を振りながら走り出しました。その後、第二、第三走者へとトーチが渡っていき、計11組のランナーが聖火をつなぎました。ランナーはそれぞれ新型コロナウイルス感染症の収束、未来への希望など、一人ひとりの思いや願いを「希望の火」に託してトーチをつなぎ、

